御大典記念大鳥居竣功

平成五年六月九日

昨年四月の奉賛会結成以来、多くの皆様のご協賛を賜り大鳥居の造営が無事なされましたこと、心より御礼申し上げます。

左記の通り、奉賛会への寄付が寄せられましたので報告させていただきます。

特別会員　六口八名（二、九五五、〇〇〇円）
普通会員　二、六五四名（三、四一六、〇〇〇円）
計　二、三二二名
奉賛金総額　二五、三七一、〇〇〇円

二、三二二名の皆様一人一人の御信心が集まって完成したのだということを心に刻み、改めて大鳥居を見る時何とも言いがたい感動を覚えます。榛名さまもよりよろこんでおられます。必ずや皆様方へのよりよい一層の御加護お導きがあると信じます。今後ともご尚一層のご協賛、ご尽力くださいますようお願いいたします。

ご協賛ございました皆様方本当にありがとうございました。

《経過報告》

平成四年四月十三日　榛名神社記念事業奉賛会結成
　〃　七月十九日　募金開始
　〃　九月　九日　入札（約一五社、山二工業株式会社に落札）
　〃　九月二四日　請負契約　地鎮祭執行
平成五年一月　四日　建設工事本格着工
　〃　五月二三日　完成
　〃　六月　九日　竣功奉告祭

高さ　9.12m　笠木幅　13.62m　柱幅　7.50m

大鳥居竣功祭

氏子中で待ち続けた大鳥居が御大典記念という名で竣功した。平成四年に着工、五年六月九日御竣工、そして竣功奉告祭、有難さと嬉しさが一杯である。

恰もその日は全国民が待ちに待った皇太子殿下御成婚のその日であり、榛名神社でも特にこの日を竣功祭の日にと決めた。感激溢れる日がやってきた。

この日、朝から雨模様、しかし祭典行事の時には小止みとなる。

十時大鳥居清祓の式・記念碑除幕式そしてテープカット。この日東京よりおいでになった二条恭仁子様・金子宮司・秩父宮勢多会・山二工業木社長の四名が張った面に続いて、雅楽伶人を先頭に行列を組みながら百名が参道を通り境内に到着。直ちに所定の席に着く。

（右）金子浩隆宮司　謝辞
（左）元皇族　二条恭仁子様　ご祝辞

大鳥居から境内へ、およそ百名が参道を進む

現田太々神楽保存会による太々奉賛（浮舟）　（上）

（下）散銭、散餅

ご挨拶

榛名神社　氏子会長　石田清六

去る二月、榛名神社参与総代合同総会において氏子会長に選任されましたが、もとよりその器ではありませんが、誠心誠意この大任を果したく存じます。どうかよろしくお願い申し上げます。

今後とも一層のご協力ご支援を御願い申し上げます。

お知らせ

「榛名神社総合結婚式場」

榛名神社総合結婚式場会館内に「榛名神社総合結婚式場」が、二十年目を迎えました。全面改装の運びとなりました。

榛名神社総合結婚式場会館をとりまく環境を「結婚式場だけでなく、榛名神社の集い、人生の節目の場として整備して行きたいと考えております。

皆様の集い、人生の節目の場として整備して行きたいと考えております。

七月～九月の工事中は、ご迷惑をおかけ致しますが、ご理解をお願い申し上げます。

十月よりお会館としてオープンの予定でございます。

なおスケートを切りますので、今後もよろしくお願いします。

藍綬褒章受章

林良吉さん（柳町）

当社の氏子総代をながくおつとめ林良吉氏が、この度、藍綬褒章を受章されました。

長年にわたる社会奉仕活動に対し、心から敬意を表します。

榛名神社　役員名簿

名誉宮司　金子　安平
宮　司　金子　浩隆
権禰宜　金子由紀子

東倉内町　参与　馬場　栄一
西倉内町　参与　布施原二郎
柳　町　参与　山崎惠四郎
高橋場町　参与　松井　利博
材木町　参与　中澤　昭誠
桜　町　参与　小林　友永
上原町　参与　池田茂奈雄
東原新町　参与　栗原　進一
西原新町　参与　江田　幸吉
横谷町　参与　手島　茂
清水町　参与　生方田出正
薄根町　参与

東倉内町　総代　宮澤　弘
東倉内町　総代　竹森　一
高橋場町　総代　井上　松雄
青柳　総代　関口長太郎
材木町　総代　桑原　利夫
西倉内町　総代　尾崎　好
柳　町　総代　荻原　郁二
柳　町　総代　小林　芳平
高橋場町　総代　田中　孝吉
青柳　総代　井上　松雄
材木町　総代　関口長太郎
西倉内町　総代　桑原　利夫
柳　町　総代　尾崎　好
桜　町　総代　松井　菊次
桜　町　総代　生方　勝一
上原町　総代　生方　繁雄
東原新町　総代　星野　強次
西原新町　総代　石田　敏雄
横谷町　総代　小高　一郎
清水町　総代　小林　一郎
薄根町　総代　金子　政雄
金子政雄部　金子　政雄
金子政雄部　金子　廣久
清水町　総代　金子　廣久
清水町　総代　中島　昇
薄根町　総代　福山　繁
薄根町　総代　根岸　昭次
薄根町　総代　小川　繁